



令和4年8月3日

第6回ダイバーシティ推進ワーキングチーム「女性活躍推進」を開催

(一社)日本物流団体連合会(池田潤一郎会長)は、7月27日(水)第6回ダイバーシティ推進ワーキングチーム「女性活躍推進」(座長:東京女子大学教授 二村 真理子氏)を全日通霞が関ビル会議室にて開催し、オンライン参加12名を含む16名が参加した。

当事務局長の挨拶の後、大成建設株式会社土木営業本部電力営業部副部長 畠中千野氏が、テーマ「働きたい、働き続けたい、建設業をめざして」と題し、講演した。畠中氏は、一般社団法人日本建設業連合会 けんせつ小町支援専門部会 部会長も兼任している。畠中氏自身のキャリア紹介では、仕事やプライベートで月日や自分の成長で変化していく「ありたい姿」を意識し、生き生きと行動することを大切にすること、また、上司になってからは、仕事の成果だけでなくひとの成長を評価していくことが大切とした。「けんせつ小町」委員会の紹介では、団体と個社が連携した様々な活動を行っており、委員会メンバーが会員企業の現場を視察し、新たな気づき・発見の共有や、各社の制度を開示することで、各社が制度・福利厚生等を改定する際に参考にしていくとのことであった。制度を充実するだけでなくそれを浸透し、社員に活用して貰う風土・雰囲気形成が重要とした。けんせつ小町メンバーは、会員企業の様々なニーズを拾い上げ、セミナーの企画・開催も行っている。講演は示唆に富むものであり、参加者からは多くの質疑が寄せられた。建設業界の活動を参考にし、採用範囲が広いマーケットを持つ物流業界では、前向きに女性活躍制度整備や採用を進めることが大切であると二村座長が統括された。

続いて、4つの小グループに別れたグループ討議では、「気づきや自社のありたい姿、取り組みたい事」をテーマに、今迄当ワーキングチームで行われてきた各社の現状や課題、取組事例発表、グループ討議等を含め、更なる情報・意見交換が活発に行われた。

最後に二村座長は、政府目標の女性管理職3割という数字には違和感があるかも知れないが、女性に管理職を目指して貰い、社会が女性活躍に向かっていくには数値目標も必要であり、そしてその目標達成のためにはまず女性の採用数を増やし、女性管理職候補を増やすことが必要とコメントした。また、働き続けて貰うには、グループ発表にあった育休利用促進、女性同士の繋がりや男女関係なく同じ悩みを持つグループでのコミュニケーション、育てる社内研修等、継続的に働きやすい職場環境整備が必要と纏めた。

次回会合は、最終会合となる。

以上
事務局 関谷

当日の風景

講演 大成建設株式会社 畠中 千野氏



グループ討議風景



共有事例発表風景



二村座長



全体討議（オンライン画面）

